

会 議 録	
会議名	令和7年度第3回三郷市在宅医療・介護連携推進協議会
日時	令和8年1月26日(月) 13時30分～14時30分
会場	健康福祉会館5階 501・502会議室
参加者	<p>【会 長】 谷口 聡</p> <p>【副会長】 須藤 政次</p> <p>【委 員】 岡崎 喜紀、小川 千絵、加藤 泰子、小林 真人、伊達 順平、 (五十音順) 藤井 なほ美、藤原 雅紀、前田 紗都美、山本 洋子、吉寄 太郎</p> <p>【医師会事務局】 川島 幸道</p> <p>【事務局】</p> <p>長寿いきがい課：中村課長、岡田副参事兼課長補佐兼地域包括係長、 大友主任社会福祉主事、片山主事、大津会計年度任用職員</p> <p>介護保険課：川原課長補佐</p> <p>国保年金課：長濱参事</p> <p>障がい福祉課：菅谷課長補佐</p> <p>健康推進課：欠席</p>
内容	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 入退院支援（入退院ルールアンケート結果）</p> <p>(2) 急変時の対応（具体策の検討）</p> <p>(3) 令和8年度計画（案）</p> <p>(4) 研修部会について</p> <p>(5) 広報啓発部会について</p> <p>3 報告</p> <p>(1) 三郷市在宅医療・介護連携サポートセンター報告</p> <p>4 連絡事項等</p> <p>5 閉会</p>
1 開 会	谷口会長よりあいさつ
2 議 事	<p>(1) 入退院支援（入退院ルールアンケート結果）【資料1】【別紙1】</p> <p>医師会： 現在、三郷市入退院支援ルールの活用推進について検討している。令和6年度に入退院ルールの課題を抽出することを目的に関係者へアンケートを実施した。そして今回委員から今まで出ていたご意見と、それからアンケートをまとめた現状と希望する連携の課題分類表を作成した。この課題分類表をみると、ルールの変更というより、ルールの理解が足りないというアンケートの集計の結果であった。ルールの周知以外の</p>

課題は、連携するにあたり各事業所の現実の事情というものがあり、各関係者への配慮や努力義務によるところが大きいと感じる。現状に沿って作成することが難しい内容は、どのような課題が各関係者にあるのかを周知するのも1つの案である。以上のことから、今後の活動の具体案1として、「ルール周知を中心に一部のルールの変更の検討」を提案する。

<意見交換>

- 委員：入院中の患者に対して医療相談員が付く基準がわからない。担当しているかたが入院したという情報が入ったら、ケアマネジャー（以下、「CM」とする。）として連携シートを作成して、病院へ渡すが、医療相談員がついてないことがよくある。入院時に情報提供しても退院の連絡がないこともある。家族から退院の連絡をいただき、慌てて介護保険のサービス調整を行うことが多い状況にある。市内の病院とCMとの連携を図りたい。
- 委員：これは以前からの課題であり、訪問看護でも同じようなことが多々ある。CMから連絡をもらうこともあるが、逆に病院から先に訪問看護へ連絡があった時にはCMに連絡するように心がけている。
- 会長：患者が入院した場合にかかりつけ医師のところにFAXがいく体制はとてもよくできている。病院側はCMなどに連絡をする体制になっていないのか。
- 委員：患者の入院時、病院には市内のCMはほぼ報告がある。他の病院の状況までは把握はできてないが、そのようなかたには、当院では必ず退院前にご連絡し、看護サマリーをお送りするか、退院日当日ご家族にお渡しするようにはしている。これはどこの病院も同じと思うが、各病棟で担当の医療相談員はいる。ただその患者に積極的に介入しているかは、その患者のご状態にもより、大きく状態が変わるかたに関しては必ず介入をしている。ただ全ての患者を把握できてないこともあるため、後手になってしまっているところはある。どこの病院も行っていると思うが、週1回カンファレンスを院内の職員だけで開いている。その場でその患者に介入が必要そうかどうかを検討し、判断基準の一つにもなっている。担当CMに、病院からの連絡漏れはあるかもしれない。
- 委員：介護福祉士としては、退院カンファレンスに呼んでいただきたい。通常、CMから声をかけてもらっている。患者の話から医療相談員が気づいてくれて、声をかけてくださることもある。訪問看護師のコメントにあるように、カンファレンスの内容を書面で流してほしい。入院中の状態把握と退院後の状態が違っているというのは多々あり困る。
- 委員：訪問歯科では、連絡さえくれれば大して困らないが、稀に連絡がなくて行ったら誰もおらず、後から入院したと知ることもあるが、仕方ないと割り切っている。退院されたかたに訪問依頼があるとサマリーをいただく。主病名や注意点を事前に歯科衛生士と打ち合わせをして向かうため情報共有してもらえると助かる。
- 会長：今出たアイデアを含めて見直しを行い、ルールの変更を検討してほしい。ルール周知という点に関しては、病院、CMはじめ、退院会議に関わる方々が一番大事。しっかりと周知できるような方法を考えた方がよい。

(2) 急変時の対応（具体策の検討）【資料2】【別紙2-1】【別紙2-2】

事務局：本会議では前回に続き、急変時の対応における「急変時の連携体制が十分であるか」について検討する。前回、急変時の連携体制構築のための今後の取り組みとして、「救急隊の搬送時の状況とその困りを共有する機会をつくること」を取り上げた。それに対して委員の皆様からいただいたご意見と事務局が考えた対応案は表のとおりである。委員の皆様にご意見を賜りたい事柄は、「人生ノートの配布場所および周知方法」及び「人生ノートの家族間での内容共有方法」である。

<意見交換>

会 長：現在の配布状況として、公的な場所には置いてあるが、まだ置いてないところや診療所にも置くべきだと思う。どんどん声をかけていくとよい。

委 員：書き方の講座も必要だと思う。先生方が ACP 出前講座開催しているが、その出前講座で書き方を示さなければ、ノートが完成しない。社会福祉協議会の権利擁護センターでも、各種ノートを作成しているが、その書き方の講座をやらないと、最終的に持っているだけで何も書いておらず、共有もされない。

会 長：先日の ACP 講座は、みさと協立病院の戸倉院長先生がされたが、そこでは実際に人生ノートを書いた。普段の ACP 出前講座は、講座の構成上、20 人～30 人の参加者であり、ACP について啓発はするが、具体的にそこに足を踏み出させるには対象人数が多すぎる。もっと現場に近い地域包括支援センター（以下、「包括」とする。）や CM との関わりが大事ではないか。

委 員：書き方の重要性は感じている。特に人生の終盤にさしかかったとき、この 1 冊だけで全てが決定するわけでもないが、揺れ動く患者、家族心理にも配慮できたらいい。記載した日時が古くなってきたら、更新の促しを包括や CM、訪問看護師等ができるといい。

委 員：薬局やクリニックも置いていいのか。医療機関には治療に行くので、医師と話し合う機会にもなるのではないか。

委 員：薬局は処方されて薬をもらいに来るとが多いので、薬局に置いてあると、かなり参考になるかと思う。ただこれを実際に一緒に書く時間は取れないため、担保できるとよい。

委 員：どうしてもクリニックや公共施設に行けないかたもいるので、75 歳以上のご自宅に関しては全配布することが理想。ただ予算的な問題もある。ご自身で書けるかたは公共施設などでもらうといい。ただ要介護状態のかたは、そのようなところで受け取ることも難しい。そのため、業務負担になってしまうが、居宅支援事業所にまとめて配って、CM が記入も手伝い、入院時などの連携に役立てるといいと思う。ただこの人生ノートを記入後、家の中で置き場所を統一しておかないと、救急隊が見ることができない場合もある。抜粋した部分を救急キットの中に入れることを検討してもよいかもしれない。緊急時の連絡先の把握についても、CM 主導のもと救急キットの中を定期的に点検していく習慣づけが必要。更新時に本人の意思表示ができる場合はいいが、意識を失っているケースや、認知機能の低下があるかたに関して、ご家族と定期的にチェックして更新して

いけるような体制作りができたら良い。

委員：更新という点では、全てボールペンで書いた後にまた変わると冊数が増える一方なので、日付を記入の上、鉛筆で書いて消せるような形を取ることも一つ手である。

会長：一人暮らしをされているかたは特に人生ノートを書いてほしいが、家族との内容共有がうまくいかないのではないかと。家族で話す機会がないと共有ができない。

委員：契約のときは、ご家族が同席されることが結構多い。なるべくそのようなときに話を出せるようにはしている。人生ノートは持っていないので、もらえれば契約のときには話しやすいかもしれない。書いておいてくれば次の訪問時に一緒に考えることもできる。

会長：訪問の時間に一言アドバイスしてあげるのを書く動機に繋がるかもしれない。

委員：訪問リハビリの中では、その人生ノートを持っているかを確認することがあまりないが、おそらくそれができればその場でリハビリ職と一緒に書くことに関わることができる。特にその人が今までどんな人生を辿ってきたのか、振り返っていくということで、これからのリハビリプログラムに繋がり、本人にどう納得を作っていくか関わることができるので、リハビリ職としてもそこに積極的に関わりたい。

委員：CM よりも訪問看護やヘルパー、リハビリ職の方が話しやすいかたもいると思う。ぜひ色々な職種、事業所が関わり話していけるといい。相談を受けたかたが、何かすぐお話できるような体制をまず作るべき。家族間の共有については、施設入所者には必ず事前に確認をとるが、急遽変わることもあり、家族間やご本人の意見が違うということもあるため、家族全員で統一や共有は難しい。第1 緊急連絡先の方は職場の連絡先も教えてもらい、2 番手3 番手まで聞くようにしている。

委員：サポートセンターとしては、積極的にCM や事業所に配り使っていただきたい。

委員：人生ノートの新しいバージョンいつできるのか。

医師会：在庫は約 300 冊。その配布が終わり次第、次のバージョンにする。

委員：今の話から、各医療機関、薬局、居宅介護支援事業所、訪問看護、訪問リハビリ等の事業所、特に医療系は穴場になっているところが多いと思うので、それに配れる体制を整えていく。

委員：薬局としてもぜひ積極的に関わりたい。ただ配るだけでなく、資料をいただくと各薬局に配るときの参考にさせてもらえる。そして緊急連絡先について、キットには人生ノートの必要な部分を切り取って入れるのも良い。また QR コードを利用することで、家族や関係者はそれを見れば、今の情報を読み取れることができるようになる。QR コードをキットやマイナンバーに貼ることで情報のアップデートもしやすくなる。

会長：人生ノートを具体的にどのように書いたらいいのかの説明もあると一歩踏み出しやすい。

(3) 令和8年度計画(案)【資料3】【参考資料1-1】【参考資料1-2】

事務局：令和8年度計画(案)は資料のとおり。協議会については、来年度新たな場面の検討に

は移らず、急変時の対応のアンケート報告から見えてくる課題の検討や、今までの場面について振り返りを行う。協議会3回のうち1回を「在宅医療・介護連携における目指すべき姿の指標マップ作成にむけて検討」を行いたいと考えている。

委員：研修部会のときもグループワークが非常に盛り上がり様々な意見がでた。多職種で集まることが有効だと感じた。

委員：私達だけでは見えてない部分もあると思うのでファシリテーターがいると、話が進んでいくのではないかな。

委員：介護と医療は目指す方向性が異なることがあるため、導いてくれるかたがいると気づきが生まれていい機会になると思う。

会長：生駒市は最終アウトカムを2040年に設定しているため、遠いように思うが、新潟市は特に期限を定めていない。期間をどう設定するかも大事。国の指針も漠然としており、数年おきに変わるため、意外と忙しい。

委員：医療と介護は溝があるとよく言われるが、お互いのことを理解し合うことは大事。話し合うことは意義がある。この協議会の中で指標マップ作成を行う場合、職種の代表として来ているので、私はその前に市内の医療相談員の方々と検討してから出席したい。

委員：急変時の対応をテーマにするということによろしいか。

事務局：4つテーマを1時間の中でやるのは難しいと考えている。今検討段階の急変時の対応がいいのではないかと、今のところは考えている。

委員：急変時の対応を話し合うということであれば、消防隊も参加してほしい。

事務局：今回は諸事情により欠席だが、次回参加調整する。

委員：参加者を増やすことは考えていないのか。

事務局：他の自治体ではたくさんの方々の専門職を集めて大規模に検討しているところもあるが、まだまだ検討が必要な段階であり、来年度に向けて資料を収集しつつ、できれば初回は小規模でやりたいと考えている。

会長：まずは試験段階。小規模でバージョン1を作成してみる。

(4) 研修部会について【資料5】

委員：部会で今年度の振り返りと来年度の方針について議論した。「チームが支援するACP」というテーマが他の地域でもあまりないテーマであり、良い機会となった。グループワークも盛り上がり、もう少し時間がほしかったという意見が出た。開催時期は、今年度のように9月頃という意見が出た。来年度の活動方針については、再度ACP事例、ACP且つICTツールの活用、介護職が上手に機能して連携を図り取り組んだ事例が知りたい等様々な意見が出ており、検討していく予定。

<意見交換>

会長：医師会の在宅医療部会のメンバーに精神科の医師が入った。在宅医療部会はまだ精神科

の意見が聞けるような場所になるので、市内の在宅医も詳しくなっていければいい。

(5) 広報・啓発部会について【資料6】

委員：部会で今年度の振り返りと来年度の方針について議論した。振り返りとして、講演会は概ね好評で、当日はスムーズに開催できた。絵本や動画作成は6年間で終わったが、今後の課題は絵本や動画をさらに活用していくこと。引き続きどのテーマにするか検討中だが、介護の絵本などを利用した啓発活動をしていきたいという話になっている。先ほど人生ノートの話が出たが、わかりやすい資料があるといいという意見もあった。できれば作成したものを有効活用していただきたいので、例えば人生ノートと一緒に人生会議の絵本を配ってもらうことや、ACPの関連の書類を配ってもらう等、動画のURLをつけてもらうことも検討したい。

<意見交換>

会長：市民向け講座は、質問しやすい環境で1回開催ということか。

委員：例年1回、今年度も1回開催。しかし、今年は10数人と例年より若干少なめであった。

会長：そういう場合、参加者が少なければ実際に手を動かしやすいので、人生ノートを書く機会を何回か作っても面白い。

委員：その案も先日の会議で出ていたので今後検討する。

3 報告

(1) 三郷市在宅医療・介護連携サポートセンター報告【資料7】

医師会：報告は【資料7】のとおり

4 連絡事項等

事務局：来年度第1回の会議は、5月25日（月）13：30から行う。

5 閉会 副会長よりあいさつ